

授業展開例（音楽）

1 学 年 第3学年

2 題材名 世界の愛唱歌に親しもう

3 ねらい 表現の活動を通して、いろいろな国や地域などの音楽の特徴を味わったり、表現を工夫したりして、音楽に対する感性を豊かにする。

4 設定理由

昨今、マスメディア等を通して、さまざまな国や地域の文化や音楽を見たり聴いたりすることができる。本題材は、身近な音楽や世界の諸民族の歌を歌うことを通して、旋律の美しさや曲の気分を味わい、表情豊かに表現すること、また、それぞれの国の文化や曲の生まれた背景を理解し、言語や風俗の違いを越えて人々の心を結び合わせる音楽のすばらしさを感じ取らせたいと考え、設定した。

教材の人権にかかわる視点

本題材で扱う教材「OH HAPPY DAY」はゴスペルと呼ばれるジャンルに属するものである。また、「リパブリック賛歌」もアメリカ民謡と記載されているが、19世紀中頃から黒人たちが集会などで歌っていた、スピリチュアル風の歌を起源としている。これらの歌は、美しいハーモニーや躍動感を感じさせるが、その背景には、奴隷制がしかれていた時代のアメリカで厳しい立場に置かれた黒人たちの生活がある。自由がまったくなく、人間としての価値を認められていなかった彼らは、アフリカの文化的伝統（考え方をすべて歌で表現する）をふまえて、日常の生活体験から出た考え方や現実体験を、集会があるごとに歌の中で表現し歌うことによって、自分の思いや願いを人々に伝えていた。政治的・経済的要求もあったし、肉体的な疲れも、仕事や食事の不満も歌の中で表現した。これらは、黒人奴隷達の過酷な現実に対する抗議と抵抗であったとともに、いつか必ずや自由が与えられるという希望の確信でもあった。このようなアメリカ黒人文化の神髄は、少しずつ形を変えつつも、今もアメリカの音楽・文化として、その伝統が受け継がれている。

現在、日本にも、多くの外国人が滞在・生活しているが、そのすべての人達の自由や人権が守られているとは言えない状況がある。この題材を通して、人間の自由・平等・尊厳の大切さに気付かせると同時に、歌に込められた「スピリチュアル」を大切に歌わせたい。

5 指導計画

第一次・・・世界の愛唱歌 [2時間]

Edelwiss Hey Jude 夢路より
帰れソレントへ 追憶

第二次・・・アカペラを通して、美しい響きの合唱をしよう [3時間]

リパブリック賛歌
OH HAPPY DAY ... (本時3 / 3)

6 本時のねらい

- ・パートの響き合いを感じ取りながら，無伴奏で表情豊かに混声三部合唱をする。

【普遍的視点】

異文化理解

- ・ **ゴスペル（黒人霊歌）が生まれた時代背景を知り，歌に込められた思いを理解して歌う。**

7 展開

指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準・ 評価方法
<p>1. 発声練習</p> <p>2. 教材曲の歌唱</p> <p>3. 曲についての理解</p>	<p>既習曲「リパブリック賛歌」を歌う。</p> <p>手拍子，足拍子，コール&レスポンスで体をほぐし，発声練習をする。</p> <p>ソプラノ・アルト・男声パートをそれぞれピアノに合わせて歌う。</p> <p>各パートの響き合いを感じ取りながら，無伴奏で合唱する。</p> <p>歌ってみて，どのような感じを受けたか，またどのような場面で歌われていたか想像する。</p> <p>ゴスペルと呼ばれる音楽の生まれた背景を知り，歌詞に込められた意味を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>過酷な現実に対する抗議と抵抗 いつか必ず自由を与えられると いう希望の確信 明日を生きぬく力</p> </div>	<p>響きのある明るい声で歌わせる。</p> <p>ゴスペルのリズムの取り方や応答形式に慣れ，楽しい雰囲気を作る。</p> <p>音程とリズムをつかんで歌えるようにする。</p> <p>ワークシートに感想を書かせ，音楽の特徴をつかむことができたものをいっくら取り上げる。</p> <p>当時の様子をあらわした絵や文を紹介する。</p> <p>過酷な奴隷制時代に歌い継がれ，アメリカ黒人文化の真髄として人間の自由・尊厳を主張してきた歌のもつ意味を考えさせる。</p>	

	他のゴスペルを聞き、イメージを広げる。	ゴスペル特有の歌い方や躍動感を感じつつ、当時の様子を想像させる。	
4. 学習のまとめ	全員で再度、混声合唱をする。		どういうイメージを抱きながら歌ったかを振り返らせ、歌に込められた思いが理解できているか、観察する。